

平成16年度（第48回）
岩手県教育研究発表会発表資料

道 徳

**道徳的価値の自覚を深める
道徳の時間の指導に関する研究**
- 児童の体験を生かした指導法の工夫をとおして -

平成17年2月9日
長期研修生
所属校 江刺市立岩谷堂小学校
千葉 正 司

目次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容	1
2 研究の方法	2
3 指導実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想	2
(1) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本的な考え方	2
(2) 児童の体験を生かした指導法の工夫の意義	3
(3) 体験を生かした指導法の工夫の内容と進め方	3
(4) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想図	4
2 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する実態調査及び調査結果の分析と考察	5
(1) 実態調査の目的と内容	5
(2) 調査結果の分析と考察	5
(3) 手だてにかかわる配慮事項	6
3 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案	7
(1) 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案	7
(2) 検証計画及び調査計画	8
4 指導実践	9
(1) 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案に基づく指導実践の概要	9
5 実践結果の分析と考察	11
(1) 道徳的価値の自覚の深まりの状況	11
(2) 手だてに関する意識の状況	17
6 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する研究のまとめ	18
(1) 成果	18
(2) 課題	18
研究のまとめと今後の課題	18
1 研究のまとめ	18
2 今後の課題	19

おわりに

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

道徳の時間では、計画的、発展的な指導によって学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を補充、深化、統合するとともに、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することをねらいとしている。特に、児童が体験の中で気付いた様々な道徳的価値の意味や大切さについて考え、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえられるようにすることが重要である。

しかし、実態をみると、資料の主人公に共感したり批判したりしながら意欲的に話し合いに取り組んでいないものの、資料から離れた日常の体験と関連付けた発問には、自分のこととして受け止めていないため答えられず、道徳的価値の自覚を深めるまでには至っていない。このことは、道徳の時間において、児童の体験を生かしたり、日常の体験と道徳的価値を結び付けたりする指導を十分に行ってこなかったことによるものと思われる。

このような状況を改善していくためには、事前に、日常の体験の中で道徳的価値にかかわることについて感じたことをカードに記録させ、それを基に、日常の体験と道徳的価値を関連付けた発問構成をしていくことが大切である。さらに、指導過程の展開場面において、児童に体験させ道徳的価値を実感させる場を設けることにより、児童が道徳的価値を自らのこととして受け止め、道徳的価値の自覚を深めていくことが必要である。

そこで本研究は、道徳の時間において、児童の体験を生かした指導法の工夫をとおして、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方を明らかにし、小学校の道徳の時間の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

道徳の時間において、児童の体験を生かした指導を、次のような手順で行うならば、児童が道徳的価値を自らのこととして受け止め、道徳的価値の自覚を深めることができるであろう。

- 1 指導に先立って、道徳的価値にかかわるテーマについて、日常の体験を振り返り、感じたことを、カードに記録させる。
- 2 カードを基に構成した発問により、児童一人一人に日常の体験を想起させ、道徳的価値について考えさせる。
- 3 展開場面において、役割演技により道徳的価値をとらえさせ、それを基に話し合わせ、自分を見つめさせる。

研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関する基本構想の立案
道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関する基本的な考え方や意義を明らかにし、基本構想を立案する。
- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察
基本構想に基づき、手だてにかかわる実態を調査し、その分析と考察から明らかになった点を整理し、手だての試案作成上の配慮事項をまとめる。
- (3) 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案の作成
実態調査の分析と考察から明らかになった配慮事項に基づき、児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案を作成する。
- (4) 指導実践
手だての試案に基づき、児童の体験を生かした指導法の工夫についての指導実践を行う。
- (5) 実践結果の分析と考察
指導実践結果の分析と考察をすることにより、手だての試案の妥当性について明らかにする。
- (6) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関する研究のまとめ
指導実践結果の分析と考察を基に、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関してまとめる。

2 研究の方法

(1) 文献法

基本構想の立案に当たり、先行研究及び文献などにより、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方について基本的な考え方をおさえる。

(2) 質問紙法

自作の質問紙により、手だての試案を作成する資料を得るための実態調査及び指導実践をとおしての児童の変容について調査する。

(3) 指導実践

手だての試案に基づいて、児童の体験を生かした指導法の工夫についての指導実践を行う。

3 指導実践の対象

江刺市立岩谷堂小学校 第3学年 1学級(男子18名 女子17名 計35名)

研究結果の分析と考察

1 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想

(1) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本的な考え方

ア 道徳的価値の自覚を深めることの意義

道徳の時間では、計画的、発展的な指導によって学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を補充、深化、統合するとともに、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することをねらいとしている。

児童の道徳的価値の自覚は、児童自身の日常の体験で培われた認識能力や心情などの発達に合わせて、具体的な状況に即して葛藤や感動などを体験し、深まっていくものである。また、道徳的価値の深まりは、他律から自律へ、結果重視から動機や過程重視へととらえ方を変容させていくと考える。

しかし、児童を取り巻く環境の変化が大きく影響し、人間同士のかかわりの弱さが見られるようになった現代では、他者の考え方や立場を推測して他者を理解する能力の低下や乏しさが児童にみられる。そのため児童は、道徳的価値を深める体験の機会不足により、道徳的価値を表面的に理解している段階にとどまっているのが現状であり、道徳的心情や判断力、実践意欲や態度を育むことが難しい状況にある。この現状を改善し、児童が健全に道徳性を発達させていくためには、道徳的価値を自分とのかかわりでとらえる場を設け、意図的に深めていくことが必要であると考え。

そこで本研究は、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する研究を進めていくことにする。

イ 道徳的価値の自覚の深まった姿

本研究では、小学校道徳における道徳的価値の自覚が深まった姿を「道徳的価値を自分とのかかわりでとらえ、よりよい生き方をめざそうとする思いをもつ児童」ととらえることとする。「道徳的価値を自分とのかかわりでとらえ、よりよい生き方をめざそうとする思い」とは、日常生活において、そこに内包された道徳的価値を自分なりに見つめ直し、主体的に問題を解決しながら、よりよい生き方をめざそうとする意識である。

そして、道徳的価値の自覚の深まりの構成要素を3頁【表1】のように考え、研究を進めるものとする。「つかむ」とは、日常の体験の気持ちや考え方から、ねらいとする道徳的価値をとらえること 資料の登場人物の気持ちや考え方から、ねらいとする道徳的価値をとらえること ねらいとする道徳的価値の大切さに気付いていることである。「受け止める」とは、日常の体験と資料の道徳的価値を結び付けていること ねらいとする道徳的価値に対する多様な価値観に共感的にふれること 道徳的価値を自分との結び付きでとらえていることである。「見つめ直す」とは、ねらいとする道徳的価値に照らし、道徳的価値を改めて考えていること 道徳的価値を自分のものとした上で、価値の自覚を深めていくことである。

【表1】道徳的価値の自覚の深まりの構成要素と児童の姿

構成要素	児童の姿
つかむ	日常の体験や資料の中からねらいとする道徳的価値に気付き、その道徳的価値の大切さが分かっている
受け止める	多様な考え方にふれ、道徳的価値を自分との結び付きでとらえている
見つめ直す	道徳的価値を、自分のものとした上で、よりよい生き方をしていこうとする意識を高めている

(2) 児童の体験を生かした指導法の工夫の意義

道徳の時間は、児童が体験の中で気付いた様々な道徳的価値の意味や大切さについて考え、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえられるようにすることが重要であると考えます。

しかし、実態をみると、資料の主人公に共感したり批判したりしながら意欲的に話し合いに取り組んではいるものの、資料から離れた日常の体験と関連付けた発問には、自分のこととして受け止めていないため答えられず、道徳的価値の自覚を深めるまでには至っていない。このことは、道徳の時間において、児童の体験を生かしたり、日常の体験と道徳的価値を結び付けたりする指導を十分に行ってこなかったことに原因がある。そこで、児童に体験させ道徳的価値を実感させる場を設けることが必要であると考えます。

体験を道徳の時間の中で生かすことにより、児童は、実践の機会が与えられ、自らの意志と判断によって行為を選択し実行することが可能になる。そして、体験とほぼ同時に体験を支えている心情や動機に気付くことができると考える。この感覚は、道徳的価値の自覚を深める際に有効であると思われる。

一方で、体験後、自己を見つめる中で時間をかけて道徳的価値の大切さに気付く場合もある。この自己を見つめる時間を経て形成された自分なりの気持ちや考え方と、資料で学んだ道徳的価値に照らし、体験した事実のみでなく、その行為を支えていた動機やそのときの心情を基に、互いの考えを理解し合いながら道徳的価値の自覚を深めていくこともできる。

児童は、日常生活において、様々な体験をしている。その中で、道徳的価値にかかわることについて、感じたり、考えたりしている。このことを、道徳の時間に児童が想起し、自己を見つめながら、体験（役割演技）により道徳的価値を実感していけば、道徳的価値の自覚を深めていくことができると考える。

以上のことから、児童の体験を生かした指導法の工夫は、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導を進めていく上で、意義あることと考える。

(3) 体験を生かした指導法の工夫の内容と進め方

本研究では、体験を生かした指導法の工夫として、次の三点から研究を進めていくことにする。

ア 「ほっとカード」への記録

「ほっとカード」は、児童に、日常の体験の中で、道徳の時間で取り扱う道徳的価値にかかわることについて感じたことを意図的に記録させるものである。自分のことと、自分以外のこととに分けて、指導に先立って、記録させ、道徳の時間の指導に活用する。

また、道徳の時間の終末で、自分の道徳的価値に対する考え方を見つめ直し、感じたことや考えたことを書かせる際にも活用する。

イ 発問構成の工夫

児童の「ほっとカード」の記述からは、児童が道徳的価値に対し、どんな意識をもっているかをつかむことができると考える。これを基に、児童が道徳的価値を自分のこととして受け止められるような発問を工夫することにより、体験して道徳的価値を実感させる場面では、多様な考えを引き出すことができ、自分を振り返らせる場面では、それまでの道徳的価値の自覚を深めることができると考える。

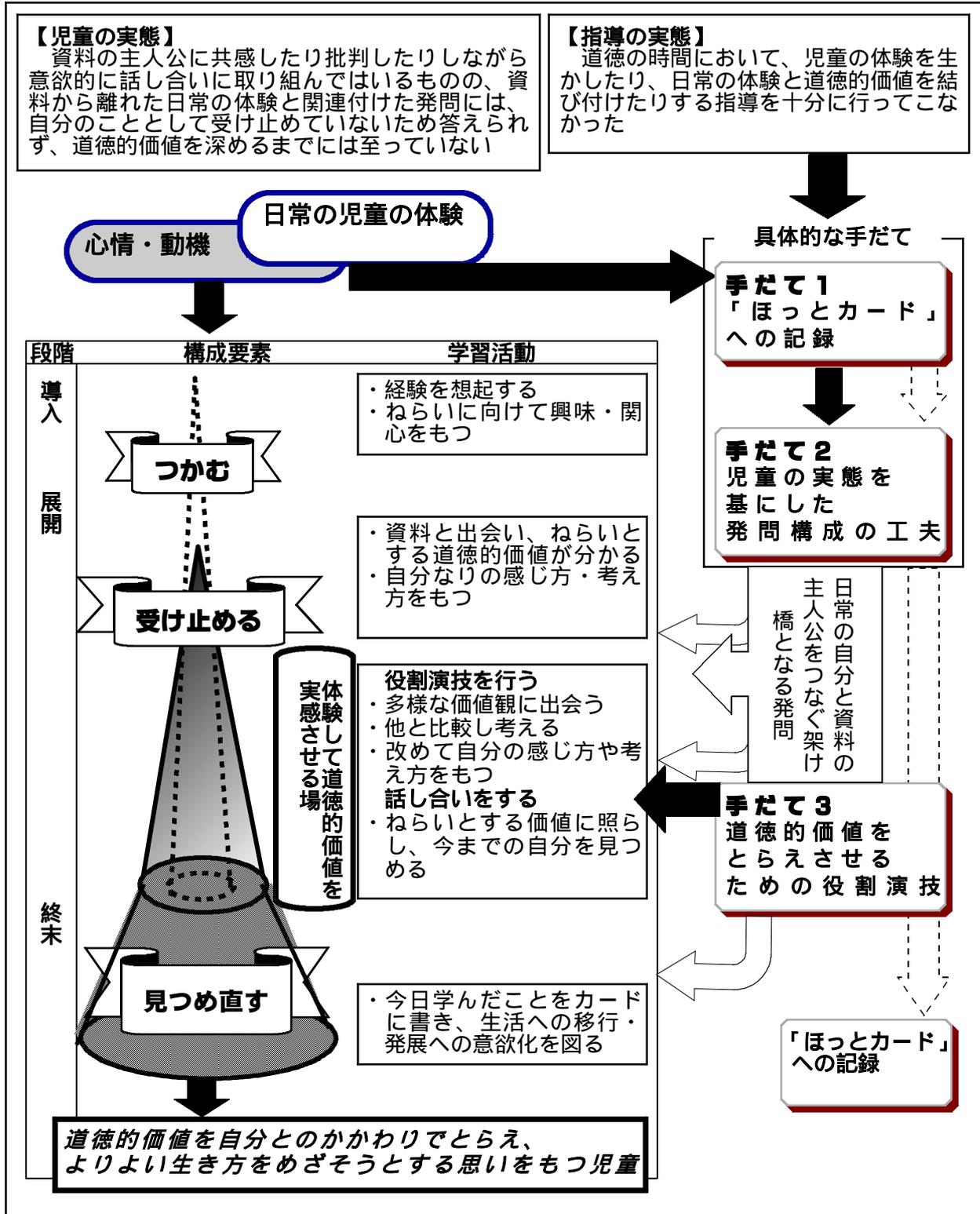
ウ 道徳的価値をとらえさせるための役割演技

本研究では、指導過程の展開場面で、児童に体験させ道徳的価値を実感させる場を設け、

役割演技を行う。これが、道徳的価値をとらえるための役割演技である。役割演技では、日常の体験と道徳的価値の結び付きに気付いた児童が、資料から離れて即興的に演じることで、児童は演技により表出した自分と、それまでの自分の違いに気付いたり、友達の演技で、自分とは異なる考えにふれたりしながら、道徳的価値を自分のこととしてとらえ、変容を意識し、多面的にとらえ、それまでの道徳的価値よりも深く自覚をうながすことができると考える。

(4) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことから、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する基本構想図

2 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関する基本構想に基づいて、児童の体験を生かした指導法の工夫を取り入れた道徳の時間を進める上での配慮事項を明らかにするために、次のような目的と内容で調査問題を作成し、7月20日（火）に調査を実施した。調査紙は、巻末の【補充資料1】に示す。

ア 実態調査の目的

この調査の目的は、調査対象となる3年生児童の道徳の時間における日常の体験を振り返るカードの活用と役割演技にかかわる意識の実態から課題を把握し、「児童の体験を生かした指導法の工夫」をしながら道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導についての手だての試案の作成に必要な資料を得ることである。

イ 調査の内容

(ア) 日常の体験を振り返ることに対する意識を知る

(イ) 役割演技についての意識を知る

ウ 調査の対象 江刺市立岩谷堂小学校 第3学年 1学級（男子17名 女子17名 計34名）

(2) 調査結果の分析と考察

ア 日常の体験を振り返ることについての実態

【図2】は、日常の体験を振り返ることについての実態について調査した結果をまとめたものである。

【図2】に示したように、「ア よくある」と答えた児童は6人で、全体の17.7%、「イ ときどきある」と答えた児童は20人で全体の58.8%である。これらを合計すると、76.5%になる。

一方、「ウ あまりない」と答えた児童は5人で、全体の14.7%、「エ ない」と答えた児童は、3人で全体の8.8%である。これらを合計すると23.5%になる。

このことから、約8割の児童は、日常の体験（自分の生活）を普段から振り返っていることが分かる。

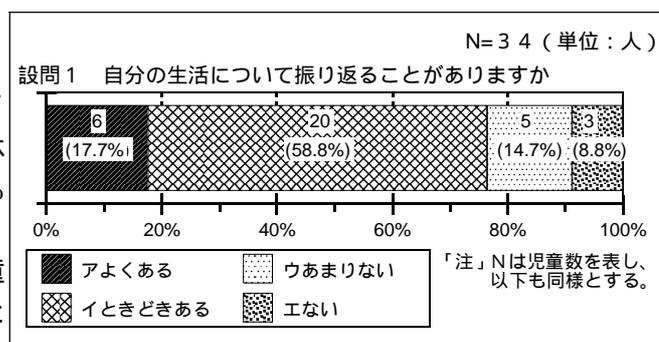
一方、約2割の児童が、日常の体験（自分の生活）を普段、振り返っていないことが分かる。

【図3】は、日常の体験を、振り返って書く場合に、教師に提示してほしいこと（複数回答）について調査した結果をまとめたものである。

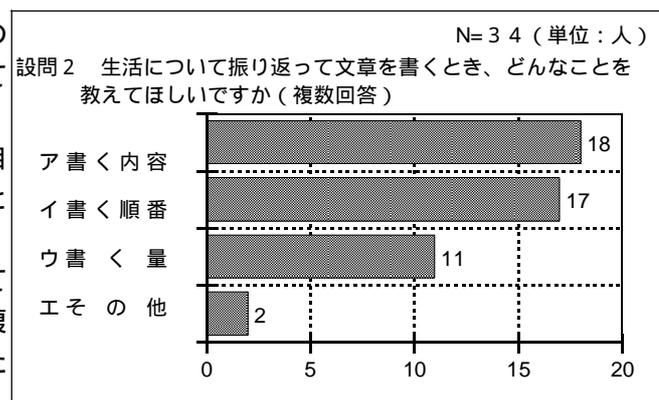
【図3】に示したように、「ア 書く内容について」と答えた児童は18人、「イ

書く順番について」と答えた児童は17人、「ウ どのくらい書くかについて」と答えた児童は11人、「エ その他」と答えた児童は2人であった。「エ その他」の内容は「これからの授業内容について教えてほしい」「自分が忘れたことを、援助してほしい」だった。

このことから、児童が、日常の体験について振り返って書く場合、どこから手を付けてよいか曖昧にしか、とらえられないでいることが分かる。



【図2】日常の体験を振り返ることについての実態



【図3】日常の体験を、振り返って書く場合に、教師に提示してほしいことの実態

イ 役割演技についての実態

【図4】は、道徳の時間に役割演技をする場合、児童が演じやすい人数について調査した結果をまとめたものである。

【図4】に示したように、「ア 2～3人でほしい」を選んだ児童が2人で全体の5.9%、「イ 4～6人でほしい」を選んだ児童が18人で全体の52.9%、「ウ 7～10人でほしい」を選んだ児童が14人で全体の41.2%であった。

このことから、大半の児童は、道徳の時間に役割演技をする場合、少人数よりも、4人以上で取り組んでみたいという意識があることが分かった。

【図5】は、道徳の時間に役割演技をする場合、せりふが思いつくかについて調査した結果をまとめたものである。

【図5】に示したように、「ア たくさん、思いつく」と答えた児童は12人で全体の35.3%、「イ 少し、思いつく」と答えた児童は、15人で全体の44.1%であった。

一方、「ウ あまり、思いつかない」と答えた児童は、6人で全体の17.7%、「エ ぜんぜん、思いつかない」と答えた児童は、1人で全体の2.9%だった。

このことから、約8割の児童は、道徳の時間の役割演技では、自分でせりふを思いつくことが分かる。一方、約2割の児童が、道徳の時間の役割演技では、自分でせりふを思いつくことに抵抗があることが分かる。

【図6】は、道徳の時間に役割演技をする場合、せりふに合わせた動きが思いつくかについて調査した結果をまとめたものである。

【図6】に示したように、「ア たくさん、思いつく」と答えた児童は13人で全体の38.2%、「イ 少し、思いつく」と答えた児童は、17人で全体の50.0%であった。

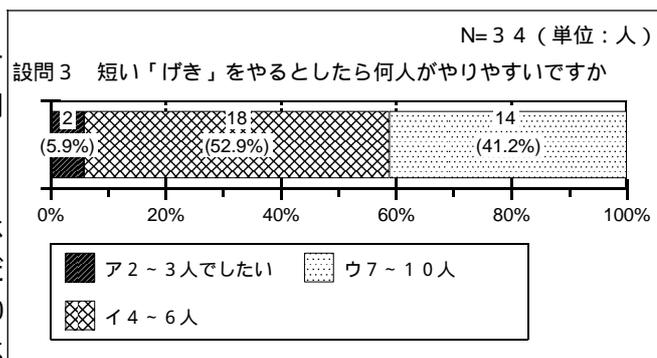
一方、「ウ あまり、思いつかない」と答えた児童は、4人で全体の11.8%、「エ ぜんぜん、思いつかない」と答えた児童はいなかった。

このことから、約9割の児童は、道徳の時間の役割演技では、自分で考えたせりふに動きを思いつくことができるといえる。一方、約1割の児童が、道徳の時間の役割演技では、自分で考えたせりふに合わせた動きを思いつくことに抵抗があることが分かる。

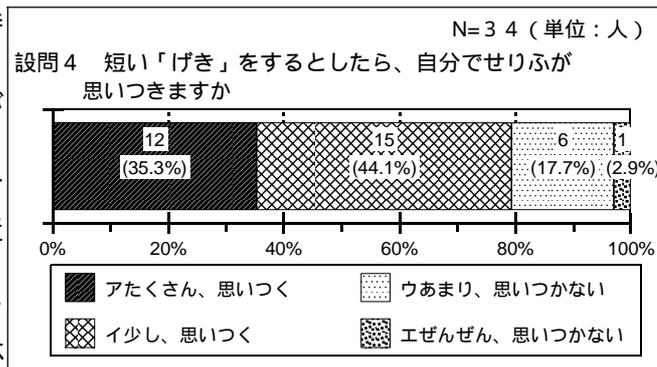
(3) 手だてにかかわる配慮事項

調査結果の分析と考察に基づき、手だてにかかわる配慮事項を次の三点とした。

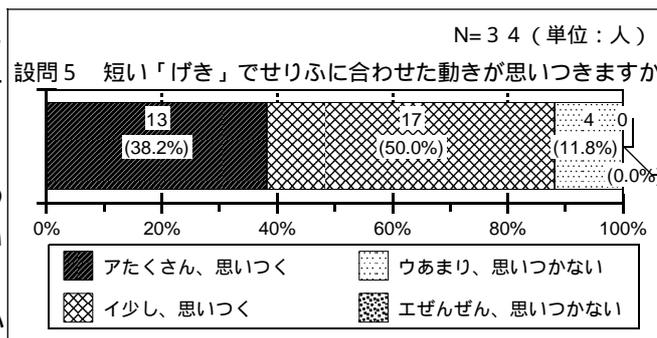
- ア 日常の体験を振り返ることの有用性を認識できる雰囲気を作る。また、書くとき、どのように書くのかを明確にする。
- イ 役割演技をする際、一人一人が感じたり考えたりしたことを表現しやすくするためのグループを編制する。
- ウ 自分でせりふやせりふに合わせた動きを思いつくことができるように、発問提示の工夫をする。また、自分の考えを表出できるような授業の流れにする。



【図4】 役割演技のグループの人数



【図5】 役割演技で自分の考えをことばで表現することの実態

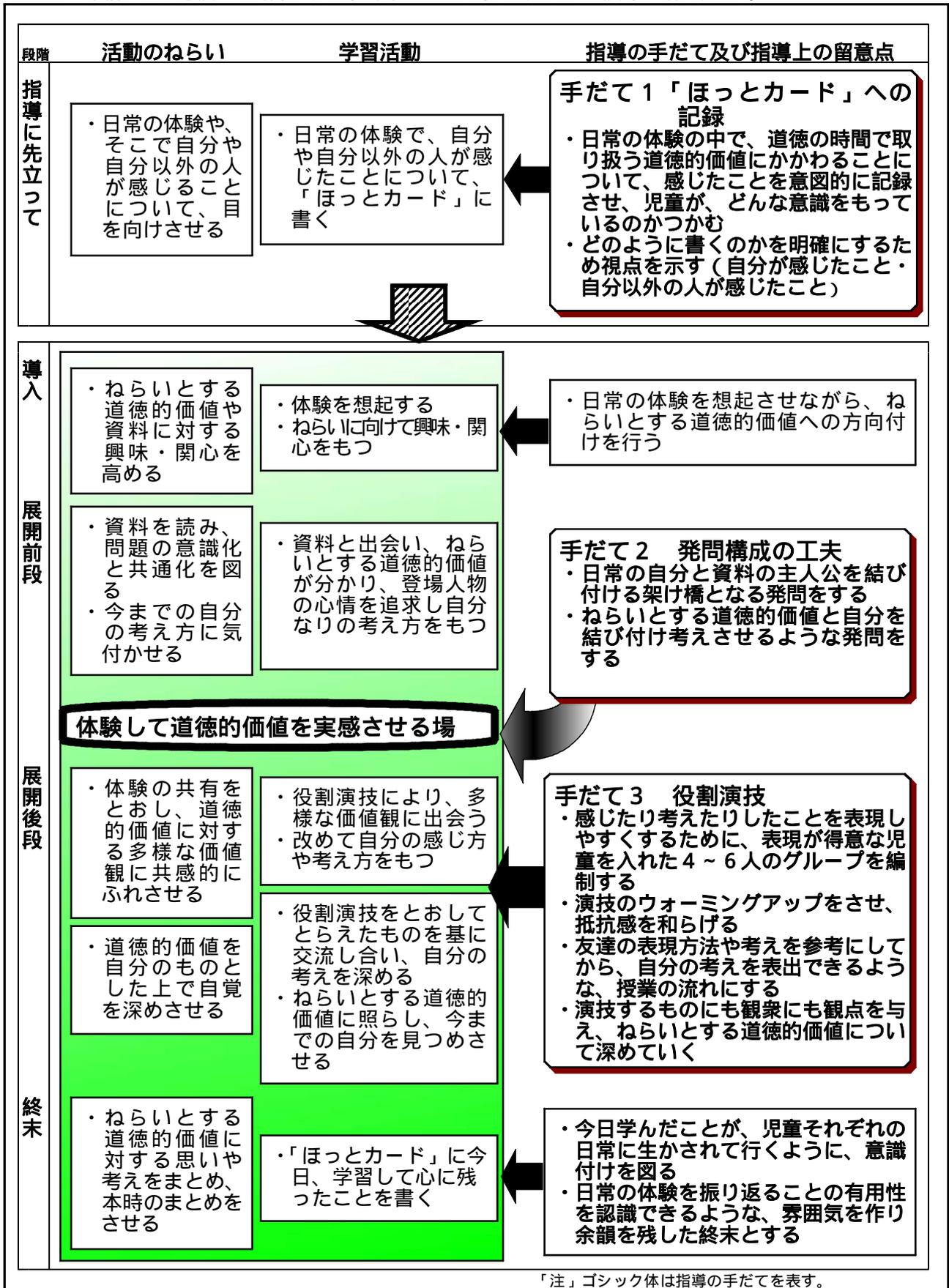


【図6】 役割演技で自分の考えを動作で表現することの実態

3 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案

(1) 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案

基本構想と実態調査の結果を受け、【図7】のように手だての試案を作成した。



「注」ゴシック体は指導の手だてを表す。

【図7】 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案

(2) 検証計画及び調査計画

指導実践をとおして手だての試案の妥当性を見るために、次のような検証計画及び調査計画を作成した。

ア 道徳的価値の自覚の深まりの状況をとらえるための検証計画

検証計画を【表2】のように作成した。また、児童の発言や表現及び記述内容については【表3】の分析基準により分析し、意識の状況をとらえることにする。なお「ほっとカード」及び調査紙を、巻末の【補充資料2】【補充資料3】に示す。

【表2】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
道徳的価値の自覚の深まりの状況	構成要素 ・つかむ ・受け止める ・見つめ直す	授業記録を分析・考察 カードの記述を分析・考察	・児童の発言や表現・記録により、意識の状況を【表3】の分析基準に基づいて分析し考察する
		授業記録を分析・考察 カードの記述を分析・考察	・取り扱った題材をとおし、抽出児童の意識を総合的に分析することにより、手だてがどう作用して効いたか考察する
		・評定尺度を設けた質問紙により、指導実践の前後に実施	・ ² 検定により意識の変容状況を分析し考察する

【表3】分析基準

検証内容	分析基準		
	類	類	類
つかむ	・自分や自分以外の人々の日常生活を想起し、そこに含まれるねらいとする道徳的価値の大切さに気付いている	・自分の日常生活を想起しそこに含まれるねらいとする道徳的価値の大切さに気付いている	・日常生活の中に含まれる道徳的価値に漠然と気付いている
受け止める	・資料の登場人物と似ている体験や気持ち・考えが自分にもあることを想起できている	・友達の発表を聞き、資料の登場人物と似ている体験や気持ち・考えが自分にもあることを想起できている	・友達の発表を参考にしながら、資料の登場人物の気持ちや考えを、想起している
	・ねらいとする道徳的価値に対する資料の登場人物や、友達の多様な考えを、積極的に受容しようとしている	・ねらいとする道徳的価値に対する資料の登場人物や友達の多様な考えを受容しようとしている	・道徳的価値に対する資料の登場人物や、友達の多様な考えを聞いている
見つめ直す	・学んだ道徳的価値を基に、自分の体験を改めて振り返り、積極的に考えている	・学んだ道徳的価値を基に、自分の体験を改めて振り返り、考えている	・友達の発表を聞き、その体験について考えている
	・ねらいとする道徳的価値は自分が生活していく上で必要であり、自分の生活を見直していこうとすることを、書いたり話したりしている	・ねらいとする道徳的価値について感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている	・ねらいとする道徳的価値とは、異なる価値について感じたことや考えたことを書いたり、話したりしている

イ 手だてに関する意識の状況を見るための調査計画

手だてに関する意識の状況を見るために、児童の体験を生かした指導法の工夫について事後に調査を実施し、指導の手だてが児童にどのように受け入れられたかを把握する。

手だてに関する意識の状況を見るための調査計画を9頁【表4】のように作成した。なお調査紙を、巻末の【補充資料4】に示す。

【表4】手だてに関する意識の状況を見るための調査

調査項目	調査内容	調査方法	処理・解釈の方法
手だてに関する意識の状況	・児童の体験を生かした指導法の工夫を取り入れた道徳の時間の意識の状況	・評定尺度及び自由記述の質問紙による意識調査を指導実践後に実施	・児童の記述内容により分析し考察する

4 指導実践

(1) 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案に基づく指導実践の概要

手だての試案に基づき作成した指導展開案に従い、江刺市立岩谷堂小学校第3学年1学級(男子18名、女子17名、計35名)を対象に、児童の体験を生かせる資料を選択し、児童の実態に即し、手だてに取り組みやすいものから、全3時間の指導実践を行った。

【資料1】【資料2】は、手だてにかかわる指導実践の抜粋である。なお手だての試案に基づく道徳の時間の指導展開案を、巻末の【補充資料5】に示す。

【資料1】指導実践の概要(役割演技にかかわる指導場面)

指導実践1 資料「しつれいおばさん」2-(1)礼儀ねらい お互いに気持ち良く過ごすためには礼儀が必要であることを知り、礼儀正しくしようとする心を育てる。

段階	構成要素	学習活動(手だてにかかわる学習活動はゴシック体で表す) 児童の反応や様子(発問: T、発言: つばやき: C)	役割演技	教師の支援
展開	受け止める	3, 体験の共有をとおり、道徳的価値に対する多様な価値観に共感的にふれる。	話し合いを深める際の代表の役割演技(仮説3)	
	見つめ直す	4, 道徳的価値を自分のものとした上で自覚を深める。	『体験して実感』する役割演技(仮説3)	

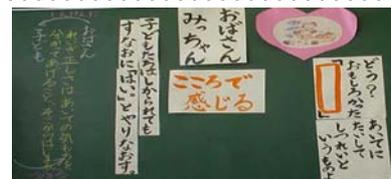
T: C1は、どんな気持ちで表現したのですか。
 C1: いい人になってほしい。
 T: どんな気持ち伝わってきましたか。
 C2: みっちゃんに優しく教えてあげる感じがです。
 C: 同じです。(同意してうなづく児童が多数)
 C3: とても優しい声で言っていました。

演じた時の気持ちを発表させた。
 演技から、伝わった気持ちを発表させた。これにより、観点に沿い、グループで演技し感じたことを、更に確認させた。
 演技から、伝わった表現の様子を発表させることで、ねらいとする道徳的価値に気付いていない児童にも、観ている側の気持ちを広めた。



C1: 相手に対して、しつれいというものよ

C: しつれいおばさんが好きだからです。
 T: なんでそんなに好きなんだろうね。
 C: お話を聞かせてくれるからです。(C: 同意の児童多数)
 C: いつも注意するけれど、本当は子どもに優しいのが分かってるからです。
 C: 怒るけど優しいし、おばさんが素直な人だからです。



4, 道徳的価値を自分のものとした上で自覚を深める。
 T1: おばさんは礼儀正しさを伝えたかったようだ。みっちゃんは・・・言えなかったようだ。では、なんて言ってあげればよかったのだろう。

発問提示の工夫(仮説2)
 T 虫食い部分を指し示しながら

『体験して実感』する役割演技(仮説3)
 C4: おもしろかったよ。楽しかったよ。(C: 同じです。多数)
 C5: 明日も聞きたいな。
 C6: こんなに言われたら、「うれいおばさん」になるね。
 C7: ぼく、楽しかったよ。もう一度聞かせてよ。
 C8: 今日のは昨日のより、おもしろかったよ。またおもしろい話を作ってね。
 グループの役割演技と、話し合いを深める際の代表の役割演技をとおり、児童に、本当の礼儀正しさについて、自分との結び付きでとらえさせた。その上で、実践的におばさんに話しかける形で、望ましい受け答えをさせ、ねらいとする道徳的価値を実感させた。



【資料2】指導実践の概要（「ほっとカード」への記録及び発問構成の工夫にかかわる指導場面）

指導実践2 資料「大きなテーブル」4 - (3) 家族愛
 ねらい 家族の一員として、明るく楽しい家庭を作ろうとする心情を育てる。

段階 構成要素 学習活動（手だてにかかわる学習活動はゴシック体で表す）児童の反応や様子（発問：T 発言：つぶやき：C）
 カードへの 児童の記入例 発問構成の 工夫 教師の支援

指導に先立って つかむ
 日常の体験や、そこで自分や自分以外の人を感じることにについて、目を向けさせる。
 家庭で「心のノート」77ページに、取り組ませた。
 ねらい・日常における家族に対する意識を知る。また、児童自身に家族について考えさせ、授業への心構えを持たせる。
 ・保護者の記述で適切なものを選び、終末で使う。

4人家族がテーブルを囲んでパン作りをするホームビデオを見せ家族に
 対する各自の思いをふくらませる。



「ほっとカード」記録（仮説1）
 設問1 家の人に、何かをして喜ばれたことがありますか（先生はありますよ！）
 みなさんのことを教えて下さい。その時、どんな気持ちになりましたか。
 ・雑巾がけをやっていて、きれいだねと言われてうれしい気持ちになりました。
 ・マッサージをして褒められました。やって良かったなあ。（C1）
 ・お風呂掃除をして喜ばれた。10円玉をくれてありがとう。

導入
 1, ねらいとする道徳的価値や資料に対する興味関心を高める。
 T：昨日は、先生の家のビデオをちらっと見せましたね。どんな様子だった？
 C：パン作り。手作り。
 C：バターを、混ぜたり・・・。パンの固まりをたたきつけていた。おいしそうだった。楽しそうだった。
 T：みなさんも、おうちの人と一緒に色々なことをやっていると思うんだけど、何かをしてあげて喜んでもらったことはありますか。
 C1：お父さんが疲れていたときに、マッサージをしてあげたら喜ばれました。
 T：マッサージね。いいですねえ。喜んでもらったのね。
 みんな、マッサージってどうやるの。
 C 動作化
 C2：ああ気持ちいい。
 C3：先生、ぼくは「うまいっ。」で言われています。
 T：おうちの人にマッサージをしてあげたことがある人？
 C 挙手多数

**カードを基に
 構成した発問
 （仮説2）**

C1に意図的指名をし、一人の日常の体験をクラスに広めることで、体験の想起・共有・共感を促した。

終末 見つけ直す
 5, ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、本時のまとめをさせる。

T：「ほっとカード」に授業で心に残ったことを書きましょう。
 ・熱を出したときは、みんな心配してくれます。治ると家族のみんながうれしくなるような気持ちだったと思います。（C4）
 ・やっぱり家族って良いなあと思いました。（C5）
 ・今、思い出したけど、私も風邪を引いたときに、すぐ病院に連れて行ってくれた。すぐ風邪が治るような気がした。家族って大事だなあ。（C6）

友達のお話を聞いて思い出した。同じようなことがあったよ。

T：おうちの人メッセージを紹介します。「心のノート」から～何でもここにこして学校のことを話してくれます。これからも楽しいこと悲しいこと、隠さず話してくれる仲良し家族でいたい。C5の笑顔で元気がでるんだよ。

授業をともし、多様な考えにふれることで、自分と家族の関係について、改めて見つけ直させた。
 指導に先立って、振り返ることができなかった児童にも、自己を見つめる中で時間をかけ、家族の大切さに気付かせた。

登場人物や友だちの考えを受け止めることができなかったC5に、おうちの人メッセージを紹介することで、より深く考えさせた。同時に他の児童に、余韻をもたせ、授業を閉じた。

5 実践結果の分析と考察

(1) 道徳的価値の自覚の深まりの状況

8頁【表2】の検証計画に基づいて、道徳的価値の自覚の深まりの状況について、授業記録と「ほっとカード」の記述内容と自己評価により、分析と考察を行った。

ア 構成要素についての状況

(ア) 「つかむ」についての状況

【表5】は、指導に先立って「ほっとカード」に記述した主な例をまとめたものである。

【表5】指導に先立って「ほっとカード」に記述した主な例

指導実践1 設問2 礼儀正しいなあと思うのはどんな人ですか。その人を見て、どう感じましたか。		類	類	類
つかむ	礼儀	・Z男です。ちゃんと礼をしているし、質問されたことに答えるから。ぼくもまねしてみたいと感じた。(A児) ・Y男は給食係の仕事で、いただきますを大きな声で号令掛けをする。私はなぜか心がとても温かくなる。(C児)	・言葉遣いがよくて、親切な人。いい人だなあ。	・母さん。ぼくも母さんみたいになれるのかなあ。(B児) ・大きな声で挨拶してる人。すごいな。 ・親切な人。
指導実践2 設問1 家の人に、何かをして喜ばれたことがありますか。みなさんのことを、教えてください。そのとき、どんな気持ちになりましたか。 設問2 おうちの人で、家族のためにがんばっている人はだれですか。どんなことをがんばっていますか。それを見て、どう感じましたか。				
つかむ	家族愛	・私が母にプレゼントしたとき、私もうれしい気持ちだった。ご飯の用意や洗濯を母は毎日がんばっている。「お母さん、ご苦労様。」と思うし、あと私もそういう大人になりたい。	・風呂掃除をしたとき「ご苦労様。またお願いね。」と言われてうれしかった。父さんはお仕事をがんばっている。大変そうだなあ。 ・マッサージをして褒められました。やって良かったなあ。(D児)	・お手伝いのとき、いいことをして喜ばれた。 ・ビールを持って行ってあげたとき。代わりに何か持ってきてくれた。
指導実践3 設問2 他の人の「あの一言は言いすぎだと思うよ。」とか、「失敗しちゃったなあ。」という出来事を教えてください。それを、あなたは、どう感じたか教えてください。				
つかむ	思慮・反省	・母が戸締まりを忘れ、家まで引き返した。確認すれば良かったと家族で後悔した。(E児) ・二人の友だちと遊ぶ約束をしてしまった。遊ばなかった方の友だちは、がっかりしていた。その時、3人で遊ぶうかなと悩んだ。(F児) ・宿題をさぼる人がよくいる。悲しいだろうなあ。先生に注意され、休み時間にやるのは。(G児)	・友だちに物を自慢されて、僕は持っていないのに「僕も持ってるよ。」と言ってしまった。	・こちょこちょされてくすぐったかった。

指導実践1では、「ほっとカード」に礼儀正しさについて、友達の名前を挙げて記述していた【表5】のA児と、母親のことを記述していた【表5】のB児を、導入において取り上げた。これにより児童は、日常と資料に含まれるねらいとする道徳的価値を、自分たちと結び付けることができたと考えられる。【表5】のC児の記述は、礼儀正しさが型だけではなく、相手の気持ちを考えることが大切だということをとらえた内容だと考える。この記述を、終末において紹介することで、学んだ道徳的価値が、それぞれの日常に生かされていくように児童たちへ意識付けを図ることができたと考えられる。

指導実践2では、10頁【資料2】のC1(=【表5】のD児)の「ほっとカード」の記述を、児童たちが、比較的多く経験している事例ととらえ、導入で取り上げた。これにより、C2、C3のような発言がみられた。C1の日常の体験を、自分のこととしてとらえた2人が家族を鮮明に想起していることがうかがえる。このことにより、本時の資料に含まれる家族への思いに意識を向け、展開に入ることができたと考えられる。

【表5】のE児・F児・G児は共に、自分や自分以外の日常の生活を想起し、後悔や悲しみを感じていることが、「ほっとカード」の記述から、うかがうことができる。特に、G児は、こういうことをすればどうなるかと、行動を起こす前によく考えていることが推測できる。指導実践3では、主人公の気持ちを話し合い、本時のねらいにせまる主発問の

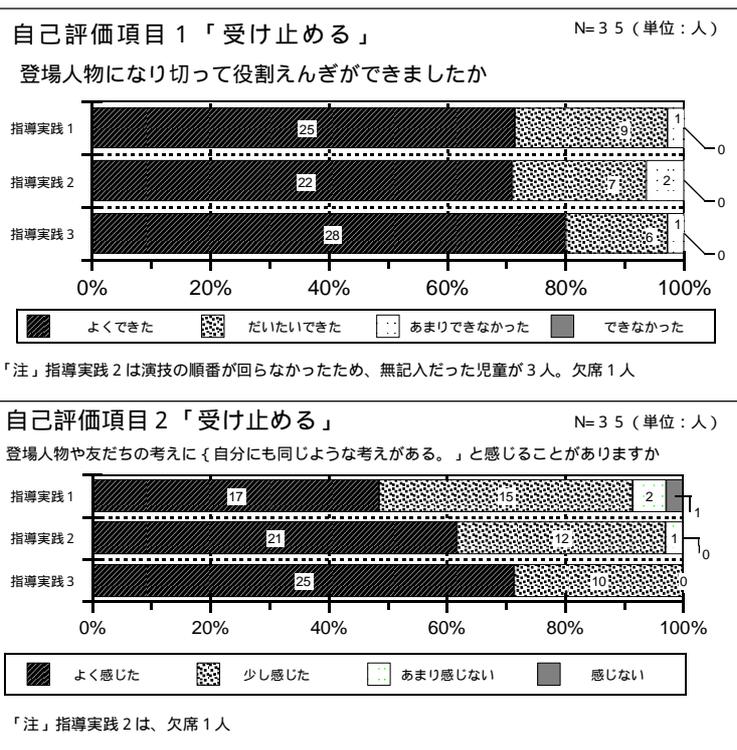
際、ねらいとする道徳的価値に対し、高い意識をもつG児に意図的指名をした。このことにより、主人公がねらいとする道徳的価値に気付く内容の発言を行った。それに続く形で、自分の日常生活を想起しているものの、そのとき感じたことについては無記入だった児童からも、ねらいとする道徳的価値に気付く内容の発言が見られたと考える。

以上のことから、日常の体験の中で、ねらいとする道徳的価値にかかわることについて感じたことを、指導に先立って記述する「ほっとカード」の取り組みと、カードを基に構成した発問は、児童が日常の体験や資料の中からねらいとする道徳的価値に気付き、その道徳的価値の大切さを理解する上で、有効であったと考える。

(1) 「受け止める」についての状況

【図8】は、「ほっとカード」の自己評価欄から「受け止める」について児童が自己評価したものをまとめたものである。その結果、ほとんどの児童が、肯定的な反応を示していることが分かる。

指導実践1では、9頁【資料1】の、C1による主人公の気持ちをその人の立場に立って表出した役割演技から、C2・C3のような発言がみられた。これは、演じる観点と観る観点を示したことにより、自分の感じたことと自分以外の人と感じたことを比較しながら考えを交流することが、焦点を絞って行われたためと考える。このことは、グループの役割演技の時点で、ねらいとする道徳的価値とはかみ合わない演技をしていた児童(9頁【資料1】のC7)が、友達の発言に共感する姿からも、うかがえる。さらに、共感的に話し合いに臨んだC7は、展開後段で自ら望ましい受け答えを考え付き、発表することができた。このことから、役割演技をとおり、とらえた道徳的価値を基に交流し合うことは有効だったと考える。



【図8】自己評価項目による「受け止める」の状況

【資料3】指導実践3の授業記録の分析と考察

C1: 心の中ではやりすぎたと思うが、素直になれない。
T: なぜ、謝らないの?やりすぎだと思っているくせに。
C2: コレッティ君が謝らなかったからです。
C3: 怒っているから、謝りの言葉がかけられない。
C4: 今さら謝ってもなあ。
C5: 謝っても、なかなか許してくれそうにない。
T: コレッティ君は、何でそんなに怒っているの?
C6: ぼくのより、いっぱいやったから(同意あり)
T: 汚れの差で怒っているのね。それは大きい違いだね。
C7: わざとやったと分かっているから、謝らないと思います。
C8: 同じで、わざとやったと思っている。(C6も同意の挙手)
C9: 色々な気持ちが心の中で、回っている。C10: 悩んでいる。

分析と考察
「ぼく」が素直に謝れないのは、コレッティ君が謝っていないという事実(C2)、相手の剣幕に押され、今、声をかけるのは適切ではない(C3)、諦めの気持ち(C4・C5)と、とらえている。これにより、様々な気持ちが入り乱れ「ぼく」に葛藤が起きていることを、クラスの児童は認識できたと考えることができる。
C6は汚れの差に、意識がいきがちである。それに共感する児童もいた。しかし、意図的指名C7とそれに同意するC8は、故意だったという心情面に注目した内容である。これにより、クラスの児童の意識も「なるほど、それもあるなあ。」と変わった事が分かる。多様な考えにふれ、自分のそれまでの感じ方と比較しながら、共感させたことによるものと考えることができる。

指導実践2に関しては、自己評価項目1において無記入だった児童が3人、「あまりできなかった」の児童が2人いた。これは、場面設定に懲りすぎたグループで、全員に主人公の役割が回らなかったためである。与えられた観点について、自分自身が取り組んでいないことに対する謙虚な反応と考えられる。それらの児童は、自己評価項目2に対しては、「よく感じた」を3人、「少し感じた」を2人が選んでいた。これは、友達の演技を観たことで、共感・共有することができたことによるものとする。

12頁【資料3】、次の【資料4】は、指導実践3（資料「あらい」1 - (2)思慮・反省）の授業記録を、分析し考察したものの一環である。

【資料4】指導実践3の授業記録の分析と考察

<p>【演じる観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>心の中にたくさんの思いが回っている「ぼく」</u> ・ <u>わざとやられた「コレッティ君」</u> <p>なり切って()に心の中の気持ちを加えて</p>	<p>【観る観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手のセリフを聞いたとき、<u>感じたことを後で話せるように</u> ・ <u>自分だったらどう演技するか</u>考えながら
6 班	
<p>C3: ぼくなら、逃げるなあ。</p> <p>C1: 待っていると(つられて言っちゃった。どうしよう。)</p>	<div style="text-align: center;"> <p>「ぼく」 「コレッティ君」</p>  </div> <p>C2: 帰りに待ってるよ(どんな仕返しをしてやる?)</p> <p>C4: 負けずにいばる。負けないぞ。</p>
<p>分析と考察</p> <p>C1の発言からは、売り言葉に買い言葉でってしまった自分に対する後悔の念がうかがえる。C3はC1の演技を受け止め、資料から離れ、自分ならどうするかについて話していると、とらえることができる。C4もC1の演技を受け止め、「ぼく」の気持ちを代弁している。後悔の念ではなく、自分の正当性を主張しようという意志が伝わってくる。C2は、わざとやられたことで、自分がやったことを忘れてしまっている。そして目にもものを見せてやるという心情が演技からうかがえる。</p> <p>このグループは、自分以外の人とのやりとりの中で、資料の中の出来事を自分のこととして受け止め、道徳的価値を体験し実感したと考える。これは役割演技により、両者の立場を演じたり、お互いに観たりしたことによるものとする。</p>	

【資料4】のグループは、友達の多様な考えを積極的に受容しながら、道徳的価値を自分との結び付きでとらえようとしていることがうかがえる。演じる観点と、観る観点を具体的に与えたことにより演技の場面・考える内容を焦点化させるという手だてが有効に働いたためと考える。しかし、他のグループでは、ケンカをするぞという自分たちのイメージに傾斜してしまい、演じる観点から離れ、ねらいとかみ合わないような過剰な演技をする児童も見られた。そこで、そのグループに支援に入り、主人公が心の中でどんなことを感じていたのか問う発問と、主人公が本当はどうしたかったのか問う発問をした。働きかけの後には、主人公の心の葛藤を再認識し、観点に基づいた演技に戻ることができた。これは、補助発問に加え、12頁【資料3】の段階で、主人公の気持ちを共感・共有できていたこと、板書で資料を振り返ることができたことによるものと思われる。しかし、グループを構成する児童によって、演じる観点の与え方も吟味する必要があると考える。このように、グループの役割演技中の支援の工夫が課題ではあるものの、資料から離れて即興的に演じるグループの役割演技では、児童が、主人公に共感し、多様な価値観に出会いながら、道徳的価値を自分のこととしてとらえることができた。

以上のことから、主人公の気持ちを共感・共有させる話し合い、資料を振り返ることができるような発問提示の工夫、具体的な観点を与えた場面と内容を焦点化させた役割演技は、児童が多様な考えにふれ、道徳的価値を自分との結び付きでとらえる上で、有効だったと考える。

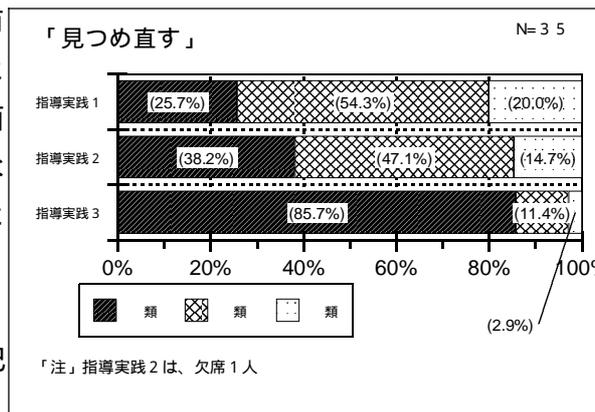
(り) 「見つめ直す」についての状況

【図9】は、「ほっとカード」の記述内容と授業記録から、「見つめ直す」について分析基準に基づいて判断したものをまとめたものである。【表6】は、授業の終末で「ほっとカード」に記述した主な例をまとめたものである。また【図10】は「ほっとカード」の自己評価欄から「見つめ直す」について児童が自己評価したものをまとめたものである。

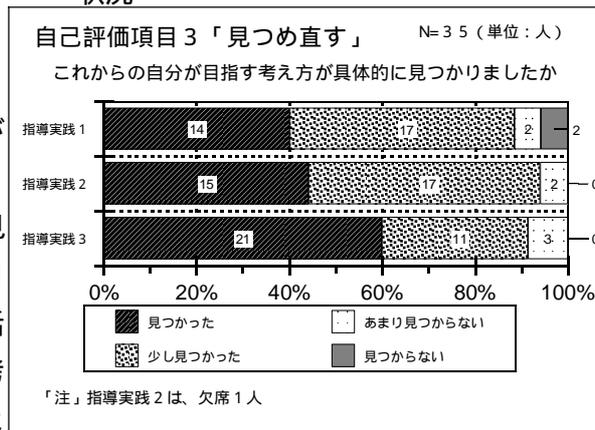
指導実践1では、「見つめ直す」の自己評価で「見つからない」が2人いた。(記述内容は【表6】のH児・I児)これは、1回目ということもあり、活動に対する戸惑いがみられたことによるものと考えられる。展開後段において、日常で主人公と同じような気持ちになった経験を問う発問をしたところ、挙手する児童がごくわずかであった。これは、発問の意図が明確に伝わらなかったため、児童が、資料と全く同じ場面を日常から探すあまり、ねらいとする道徳的価値に対する思いを深められなかったことによるものと考えられる。

【表6】授業の終末で「ほっとカード」に記述した主な例

指導実践	見つけ直す	類	類	類
指導実践1	見つけ直す	・ 本当の礼儀正しさは相手のことを考えながら、思ったことをきちんと言えることが大切です。 ・ 相手の気持ちを分かってあげ、優しさのある挨拶とかができる人です。	・ 子どものうちに、マナーを守れるようになってほしいから、いい人になってほしいからというお婆さんの伝えたい気持ちがよく分かる。	・ 本当にしつれいといえは、文句ばかり言う人。(H児) ・ 人に言われたことを素直にやったりする子のこと。(I児)
指導実践2	見つけ直す	・ 家族が、こんなにもいいとは思いませんでした。家族は大事だ。いて本当に良かった。うれしい。いないと寂しい。 ・ よく考えてみたら、熱を出したときは、みんな心配してくれています。私は「ありがとう。」と思いました。(J児)	・ 私はやっぱりふうちゃんのようなことがありました。ごはんは進みませんでした。その時、一瞬、おなかが痛くなりました。	・ ふうちゃんの気持ちを考えるのが楽しかったです。 ・ ふうちゃんの役割演技で、うまくできてよかったです。
指導実践3	見つけ直す	・ 自分が悪いという気持ちが少しでもあるなら、すぐ謝ろう。コレッティ君のように自分から謝ろう。 ・ 失敗などでケンカにならない生活にしていきたい。 ・ 本当は持っていないおもちゃを友達に「持っている」と言ってしまった。これからは、嘘をつかないようにしようと思った。(K児)	・ エンリーコ君と同じで心では謝りたいけど何か言われそうで声をかけられない。その気持ちが分かる。	・ やったらすぐに謝ろう。でもエンリーコ君よりコレッティ君のほうが悪い。



【図9】分析基準による「見つめ直す」の状況



【図10】自己評価項目による「見つめ直す」の状況

指導実践2でも、展開後段において、同様の発問をした。ある児童が具体的な経験と、そのときの気持ちを発表した際「みなさんも今の人と同じようなことはないですか。」と補助発問したとこ

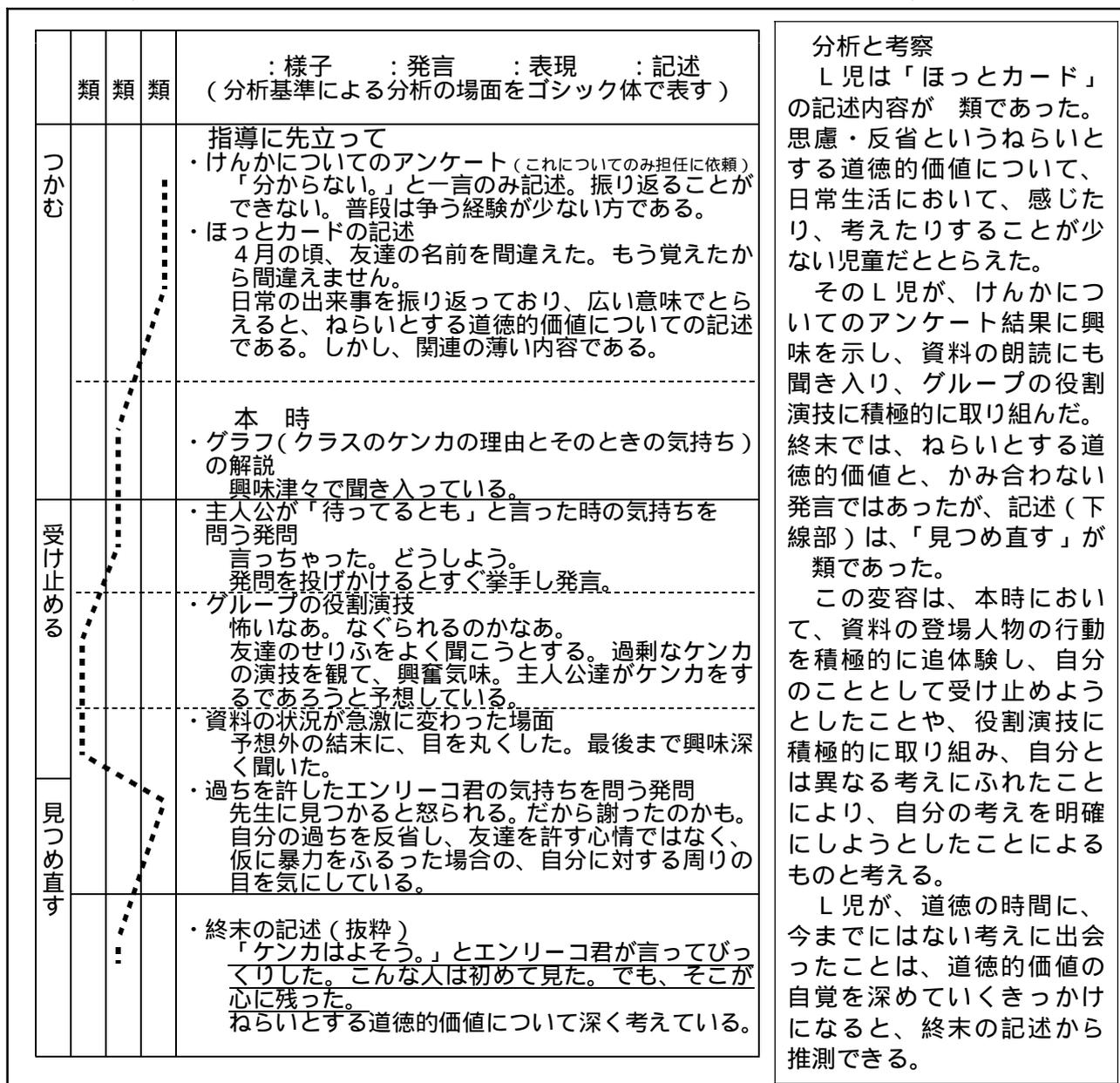
る、多くの児童が、活発に挙手し始めた。10頁【資料2】のC6は、道徳の時間の終末において、自分の日常を想起し、道徳的価値について改めて考え、家族に対する思いを新たにすることができたと考える。14頁【表6】のJ児も、同様である。

指導実践3では、登場人物に共感しながら、思慮・反省の大切さを実感した記述をした児童が多く見られた。【表6】のK児の記述からは、資料から学んだことを基に、資料に設定された場面から離れ、自分の過去の体験を反省し、よりよい生き方をしていこうとする意識を高めていることがうかがえる。

以上のことから、役割演技により道徳的価値をとらえさせ、それを基に話し合わせ、「ほっとカード」により、自分を見つめさせたことは、児童が道徳的価値を自分のものとした上で、よりよい生き方をしていこうとする意識のめばえにつながったと考える。

イ 抽出児の意識の状況

8頁【表2】の検証計画に基づいて、抽出児の意識の状況について、分析基準により分析し、総合的に考察を行った。【図11】は指導実践3における抽出児L児の意識のシュプールである。



【図11】抽出児L児の意識のシュプール

L 児の意識のシブールの考察から、一人一人生活経験の異なる児童が、日常を振り返り「ほっとカード」に記録した上で、役割演技をとおり、多様な価値観に出会い、そこでとらえたものを基に交流し合うことは、道徳的価値の自覚を深めていく上で、有効だったと考える。

ウ 意識の変容状況

【表7】は、意識の変容状況を見るための事前事後調査の結果をまとめたものである。

「つかむ」については、設問2で、有意差が認められた。これは日常の体験を振り返り、「ほっとカード」に記録する経験を重ねたことで、道徳的価値を問われる場面が資料の中だけではなく、日常にもあることに気付いたためと考えられる。また、児童の日常の体験と関連付けた資料選択をしたためと考えられる。設問1・3は事前調査の段階でプラスの反応を示した児童が多数おり、以前から意識は高かったことがうかがえる。

「受け止める」については、全ての設問で、有意差が認められた。これは、資料から離れて即興的に演じるグループの役割演技で、児童が、主人公に共感し、多様な価値観に出会いながら、道徳的価値を自分のこととしてとらえることができたためと考える。

「見つめ直す」については、設問8で、有意差が認められた。これは、役割演技により道徳的価値をとらえさせ、それを基に話し合わせ、「ほっとカード」により、自分を見つめさせたことが、それまでの自分の道徳的価値に対する考え方を高めようとする意識につながったためと考える。設問7では、事後にマイナス反応を4人の児童が示した。この4人は、道徳的価値についての様々な考えや気持ちが、道徳の時間に限らず、日常的に浮かぶようになったためと推測できる。

以上、ア、イ、ウで述べたように、本研究の指導実践における、児童の体験を生かした指導法の工夫により、道徳的価値の自覚の深まりの構成要素である「つかむ」「受け止める」「見つめ直す」

【表7】道徳的価値の自覚の深まりの変容状況

N=35(単位:人)						
構成要素	設問内容	事後		合計	2 の値	
		事前	+ / -			
つかむ	1 道徳の時間に、おうちや学校の生活の中で、感じたことを思い出すことがありますか。	+	29	2	31	0.00
	-	3	1	4		
	合計	32	3	35		
	2 道徳の時間に、資料の登場人物が考えたことは、自分にも関係があることだと感じるがありますか。	+	23	0	23	12.00*
	-	12	0	12		
	合計	35	0	35		
	3 道徳の時間に、考えたり話し合ったりしたことが、自分にとって必要なことだと思いますか。	+	30	2	32	0.00
	-	2	1	3		
	合計	32	3	35		
受け止める	4 道徳の時間に感じたことと、おうちや学校の生活で感じたことにていっているところを見つけることができますか。	+	23	1	24	7.36*
	-	10	1	11		
	合計	33	2	35		
	5 道徳の時間に、資料の登場人物や、友達が考えたことについて、「同じだな。」とか「なるほど。そういう考えもあるかもしれない。」と思いますか。	+	27	0	27	6.13*
	-	8	0	8		
	合計	35	0	35		
	6 道徳の時間に、おうちや学校の生活で、感じたことと、くらべながら考えますか。	+	23	0	23	8.10*
	-	10	2	12		
	合計	33	2	35		
見つめ直す	7 道徳の時間に、今までにはない考えや気持ちが、うかぶことがありますか。	+	23	4	27	0.10
	-	6	2	8		
	合計	29	6	35		
	8 道徳の時間に、みんなと話し合ったり、感想を書いたりしながら、これまでよりもよりよい生活をしていきたいと思うことがありますか。	+	28	0	28	5.14*
	-	7	0	7		
	合計	35	0	35		

「注」1 事前調査は9月6日、事後調査は9月24日実施したものである。
「注」2 調査は四肢選択のア、イは+反応、ウ、エを-反応とし、ア、エを各々強い反応とした。
「注」3 2検定で用いた公式は次に示すとおりである。

$$b+c > 10 \text{ のとき、 } \chi^2 = \frac{(b-c)^2}{b+c}$$

$$b+c \leq 10 \text{ のとき、 } \chi^2 = \frac{(|b-c| - 1)^2}{b+c} \text{ (イエーツの修正式)}$$
なお、b は + 反応から - 反応に変わった数、c は - 反応から + 反応に変わった数を示す。
「注」4 2の値の欄の*は、2検定において有意水準5%で有意差があることを示す。

が深まったと考える。しかし、グループを構成する児童によっては、ねらいとする道徳的価値に、しっかりと向き合っ、役割演技に取り組むことができるような、観点の与え方を考えることが、道徳的価値の自覚を深める上で必要である。したがって、グループの役割演技中の支援の工夫が課題となるが、児童の体験を生かした指導法の工夫が、概ね道徳的価値の自覚を深めるのに効果があったと考える。

(2) 手だてに関する意識の状況

9頁【表4】の調査計画に基づいて分析と考察を行った。【図12】は、手だてに関する意識の状況をみるために、児童の体験を生かした指導法の工夫に関する意識について事後調査し、指導の手だてがどのように受け止められたかをまとめたものである。

その結果、ほとんどの児童が、児童の体験を生かした指導法の工夫に肯定的な反応を示していることが分かる。

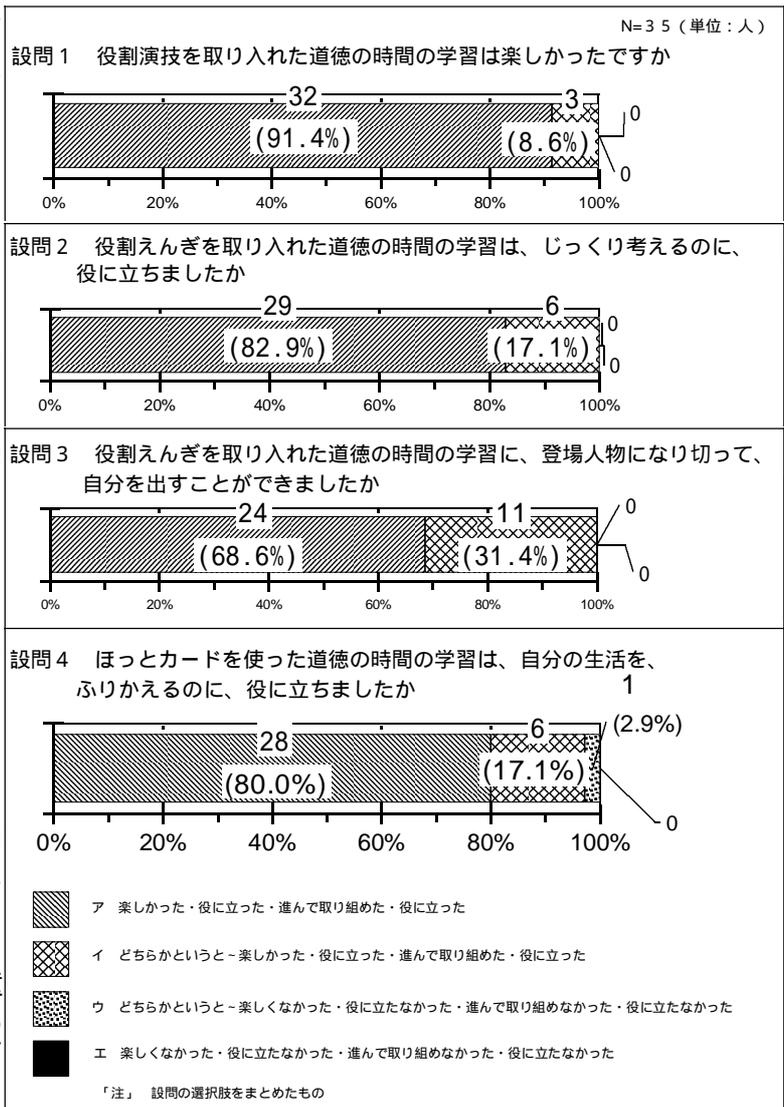
自由記述では興味・関心に対して記述した児童が7人、役割演技の有

用感に関して記述した児童が16人、「ほっとカード」の有用感に関して記述した児童が8人であった(延べ人数)。【表8】は、主な記述例をまとめたものである。

【表8】手だてに関する意識の状況の主な記述例

興味・関心	役割演技の有用感	「ほっとカード」の有用感
<ul style="list-style-type: none"> みんな登場人物になり切って楽しかった。 色々なことが分かり、道徳が好きになりました。 一緒に勉強するのが楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 演技をするときは、お話に出てきた人の気持ちがよく分かった気がしました。 演技をやったら、おばさんのことがよく分かった。 「あらそい」の演技はすごく難しかった。 はじめは恥ずかしかったけど、演技は登場人物のやることだから、恥ずかしくなくなりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ほっとカード」は分かりやすく説明が書いてあって、書きやすかった。 「ほっとカード」は自分の生活に役立ったし、書くのがだんだん好きになりました。 演技の後に、うまく自分の振り返りができて良かった。

したがって、児童の体験を生かした指導法の工夫についての試案に基づく指導は、概ね児童に好意的に受け止められたと考えられる。



【図12】手だてに関する意識の状況

6 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づき指導実践を行い、実践結果の分析をとおして、その妥当性について検討してきた。そこで、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方についての「成果」と「課題」の二点についてまとめることとする。

(1) 成果

ア 「指導に先立って、道徳的価値にかかわるテーマについて、日常の体験を振り返り、感じたことを、カードに記録させる」については、より具体的な設問を設定したことで、振り返りがしやすくなり、道徳的価値と日常の自分とを結び付けることができた。また、今までの自分の考え方を見つめ直すことができ、自分の価値観に気付くことができた。

イ 「カードを基に、構成した発問により、児童一人一人に日常の体験を想起させ、道徳的価値について考えさせる」については、日常の自分と資料の主人公をつなぐ架け橋となる発問をすることと、発問提示の工夫により、道徳的価値を自分のこととしてとらえ、考えることができた。

ウ 「展開場面において、役割演技により道徳的価値をとらえさせ、それを基に話し合わせ、自分を見つめさせる」については、観る観点と演じる観点を明確にしたことで、役割演技が焦点化された。そして、一人の日常の体験や、そのとき感じたことを全体に広める発問を組み立てたことにより、話し合いの中で考えを共感・共有し、一人一人がねらいとする道徳的価値について改めて考えることができた。さらには、道徳的価値を自分のものとした上で、よりよい生き方をしていこうとする意識のめばえにつながった。

(2) 課題

ア グループを構成する児童が変わっても、ねらいとする道徳的価値に、しっかりと向き合っており、役割演技に取り組める観点の与え方を考えること。

イ 全員が、観点をよく理解した上で役割演技を行い、道徳的価値を実感できる交流の仕方を考えること。

以上のことから、課題はあるものの、小学校道徳教育において、児童の体験を生かした指導法の工夫は、多様な考えにふれることにより、資料と日常を関連付けながら、道徳的価値を自分との結び付きでとらえることができ、道徳的価値の自覚を深める上で効果があると考えられる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、道徳の時間において、児童の体験を生かした指導法の工夫をとおして、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方を明らかにし、小学校の道徳の時間の指導の改善に役立てようとするものであった。研究の結果、仮説が妥当であることを確かめられた。なお、成果として確かめられたことは、次のとおりである。

(1) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関する基本構想の立案

児童の体験を生かした指導法の工夫を取り入れた道徳の時間の基本的な考え方や意義を明らかにし、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関する基本構想を立案することができた。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

基本構想に基づき、手だてにかかわる実態を調査し、その分析と考察を行った。そのことにより日常の体験を振り返って書くために、どのように書くかを明確にすること、役割演技をす

る際、一人一人が感じたり考えたりしたことを表現しやすくするためのグループを編制することと、自分でせりふやせりふに合わせた動きを思いつくことができるように、発問提示の工夫をすること、自分の考えを表出できるような授業の流れにするという手だてが必要であることが明らかになった。

- (3) 児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案の作成
実態調査の分析と考察から明らかになった配慮事項に基づき、児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案を作成することができた。
- (4) 指導実践
手だての試案に基づく指導実践により、児童の体験を生かした指導法の工夫についての手だての試案の妥当性を検討するための結果を得ることができた。
- (5) 実践結果の分析と考察
検証計画に基づいて、指導実践結果の分析と考察を行い、手だての試案の妥当性について明らかにすることができた。
- (6) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関する研究のまとめ
指導実践結果の分析と考察を基に、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究では、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の進め方に関して、指導実践をとおして実践的に明らかにしてきた。本研究を更に生かしていくための課題として、次の二点が考えられる。

- (1) 低学年や高学年の発達段階に応じた、「ほっとカード」の記録や役割演技を取り入れた指導法の修正・改善を重ねる。
- (2) 全教育活動で行われるそれぞれの特質に応じた道徳教育と、道徳の時間が、密接な関連をもつようにし、児童の実態に即しながら、よりよい生き方をめざそうとする思いをもつ児童を育てる指導を充実させる。

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

- 江橋照雄（1992）, 『道徳教育全書13 授業が生きる役割演技』, 明治図書
尾田幸雄（1999）, 『心の教育実践大系2 小学生の心の教育』, 日本図書センター
廣瀬久（1999）, 『新しい道徳授業づくりへの提唱16 道徳的価値の自覚を深める 発問の工夫』, 明治図書
普天間千江美（2001）, 「豊かな人間性を育む道徳の授業の工夫」, 『沖縄県立教育センター研修報告集録』第30集, 沖縄県立教育センター

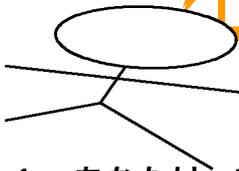
補充資料

目 次

【補充資料 1】	実態調査の調査紙	資 1
【補充資料 2】	「ほっとカード」	資 2
【補充資料 3】	道徳的価値の自覚の深まりの変容状況を見る事前事後調査紙	資 10
【補充資料 4】	手だてに関する意識の状況を見る事後調査紙	資 12
【補充資料 5】	指導展開案（略案）	資 14

アンケートのお願い

このアンケートは、楽しい道徳の授業を行うために役立てようとするものです。よく読んで、いつも思っているとおりに教えてください。



三年

番 名前

1 あなたは、自分の生活について、ふり返ることがありますか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、 をつけてください。

- ア()よくある
- イ()ときどきある
- ウ()あまりない
- エ()ない

2 あなたが自分の生活について、ふり返って、文しょうを書く時、先生にどんなことを教えてもらいたいですか。つぎのア～エのうち、あてはまるものをえらんで、 をつけてください(いくつでもいいです)。エ「その他」をえらんだ人は〔 〕に教えてほしいことを書いてください。

エ()その他

- ア()書く内容について
- イ()書くじゅん番について
- ウ()どのくらい書くかについて

3 道徳の時間に短い「げき」をするとします。何人のグループで「げき」をしたいですか。つぎのア～ウのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、 をつけてください。

- ア()2～3人
- イ()4～6人
- ウ()7～10人

4 道徳の時間に短い「げき」をするとします。自分でせりふが思いつきますか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、 をつけてください。

- ア()たくさん、思いつく
- イ()少し、思いつく
- ウ()あまり、思いつかない
- エ()ぜんぜん、思いつかない

5 道徳の時間に短い「げき」をするとします。せりふに合わせた動きが、思いつきますか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、 をつけてください。

- ア()たくさん、思いつく
- イ()少し、思いつく
- ウ()あまり、思いつかない
- エ()ぜんぜん、思いつかない

ありがとう
うございました
ました

ほっとカード



三年

番	氏名
---	----

ほっとカード1

9月 日

番	氏名
---	----

わたしたちは、毎日の生活で朝、昼、夜など「あいさつ」を、よくしますね。「あいさつ」はどうしてするのでしょうか？。 みなさんの考えを書いてみよう。

れいぎ正しいなあと思うのは どんな人ですか。

その人を見て、 どう感じましたか。

9月 日

しりょうめい
資料名

まとめ

授業で心に残ったことを書きましょう。



ほっとカード2

9月 日

番	氏名
---	----

家の人に、何かをして喜ばれたことがありますか（先生はありますよ！）。
みなさんのことを、教えて下さい。その時、どんな気持ちになりましたか。

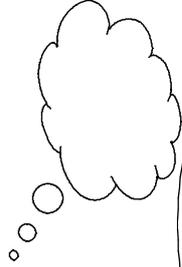
おうちの人で、家族のためにがんばっている人はだれですか。どんな事をがんばっていますか。

それを見て、どう感じましたか。

9月 日

しりょうめい
資料名

どんな気持ちかな？



まとめ

授業で心に残ったことを書きましょう。



ほっとカード3

9月 日

番	氏名
---	----

「うわ、失敗^{しっぱい}してしまった。」と思う日が先生はあります。もう、こまっちゃいます。
みんなの「失敗^{しっぱい}しちゃったな。」とか「やりすぎちゃったな。」という出来事と気持ちを教えてください。

他の人の「あの一言はいいすぎだと思うよ。」とか「失敗^{しっぱい}しちゃったなあ。」という出来事を教えてください。

それを見て、あなたは、どう感じたか教えてください。

9月 日

しりょうめい
資料名

まとめ

これからは、どういう事に気をつけていこうと
思いましたか。

授業で心に残ったことを書きましょう。





今日のふり返り	
登場人物になり切って役割えんぎができましたか	よくできた だいたいできた あまりできなかった できなかった <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
登場人物や友だちの考えにふれて「自分にも、同じような事がある。」と感じましたか	よく感じた 少し感じた あまり感じなかった 感じなかった <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
これからの自分が目指す考え方が、具体的に見つかりましたか	見つかった 少し見つかった あまり見つからない 見つからない <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

アンケートのおねがい

このアンケートは、みなさんが「道徳の時間」について、どんなことを思っているのかを知るためのアンケートです。よく読んで、いつも思っているとおり
に答えてください。



三年

番 名前

1 道徳の時間に、おうちや学校の出来事を思い出し、その時の気持ちを思い出すことがありますか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、をつけてください。

- ア()よく思い出す
- イ()ときどき思い出す
- ウ()あまり思い出さない
- エ()思い出さない

2 道徳の時間に、資料の登場人物が考えたことは、自分にも関係があることだと感じる
ことがありますか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、
をつけてください。

- ア()よく感じる
- イ()ときどき感じる
- ウ()あまり感じない
- エ()感じない

3 道徳の時間に、考える事、話し合う事が、自分にとって必要なことだと思いますか。
つぎのア～エのうち、あてはまるものをえらんで、をつけてください。

- ア()かなり思う
- イ()わりに思う
- ウ()どちらかというと思う
- エ()ほとんど思わない

4 道徳の時間に感じたことと、おうちや学校の生活で感じたことに、にているところ
を見つけることがありますか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえ
らんで、をつけてください。

- ア()かなり見つける
- イ()わりに見つける
- ウ()どちらかというで見つける
- エ()ほとんど見つけない

5 道徳の時間に、資料の登場人物や、友達が考えたことを「なるほど。それもあ
るかもしれない。」と感じながら勉強していますか。つぎのア～エのうち、自分の考
えに一番近いものをえらんで、をつけてください。

- ア()よく感じている
- イ()ときどき感じている
- ウ()あまり感じていない
- エ()感じない

6 道徳の時間に、自分の体験を思い出し、その時、感じたことと、くらべながら、考
えますか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、をつけて
ください。

- ア()かなり考える
- イ()わりに考える
- ウ()どちらかというと考えない
- エ()ほとんど考えない

7 道徳の時間に、今までにはない考えや気持ちが、うかぶ事がありますか。つぎのア
～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、をつけてください。

- ア()よくある
- イ()ときどきある
- ウ()あまりない
- エ()ない

8 道徳の時間に、みんなと話し合ったり、感想を書いたりしながら、これまでよりも
よりよい生活をしていきたいと感じることがありますか。つぎのア～エのうち、自
分の考えに一番近いものをえらんで、をつけてください。

- ア()かなり感じる
- イ()わりに感じる
- ウ()どちらかというと感じる
- エ()ほとんど感じない

どうもありがとうご
ざいました



アンケートのお願い

このアンケートは、みなさんが先生といっしょに勉強した「ほっとカードと役割えんぎを取り入れた道徳の時間」について、どんなことを思ってるのかを知るためのアンケートです。よく読んで、いつも思っているとおりに教えてください。



三年

番 名前

1 役割えんぎを取り入れた道徳の時間の学習は楽しかったですか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、をつけてください。

- ア() 楽しかった
- イ() どちらかという楽しかった
- ウ() どちらかという楽しくなかった
- エ() 楽しくなかった

2 役割えんぎを取り入れた道徳の時間の学習は、じっくり考えるのに、役に立ちましたか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、をつけてください。

- ア() 役に立った
- イ() どちらかという役に立った
- ウ() どちらかという役に立たなかった
- エ() 役に立たなかった

3 役割えんぎを取り入れた道徳の時間の学習に、登場人物になり切って、自分を出すことができましたか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、をつけてください。

- ア() できた
- イ() どちらかというできた
- ウ() どちらかというできなかった
- エ() できなかった

4 「ほっとカード」を使った道德の時間の学習は、自分が生活をふりかえるのに、役に立ちましたか。つぎのア～エのうち、自分の考えに一番近いものをえらんで、をつけてください。

ア()役に立った

イ()どちらかというと役に立った

ウ()どちらかというと役に立たなかった

エ()役に立たなかった

5 「ほっとカード」・役割えんぎを取り入れた道德の時間についての、感想を書いてください。

これでアンケートは終わりです。
ありがとうございました。



指導展開案

【指導実践1】主題名 あいてのことを考えたれいぎ「2 - (1)礼儀」

【指導実践2】主題名 家ぞくの一いんとして「4 - (3)家族愛」

【指導実践3】主題名 じぶんをふりかえって「1 - (2)思慮・反省」

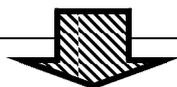
【補充資料5】指導展開案（略案）

1 指導展開案（指導実践1）

- (1) 主題名 あいてのことを考えたれいぎ 「2-(1)礼儀」
- (2) 資料名 しつれいおばさん（出典 みんなのどうとく3年 学研）
- (3) ねらい お互いに気持ちよく過ごすためには、礼儀が大切であることを知り、礼儀正しくしようとする心を育てる。

(4) 展開案（手だてにかかわる部分はゴシック体で表す）

段階	活動のねらい	学習活動	指導上の留意点
指導に先立って	<p>日常の体験や、そこで自分や自分以外の人を感じたことについて、目を向けさせる。</p> <p>ほっとカード 設問1「挨拶をしなさい」とよく言われるのはどうしてでしょう。 設問2 礼儀正しいなあと思うのはどんな人ですか。その人を見て、どう感じましたか。</p>	<p>・「ほっとカード」に自分や自分以外の人を感じたことについて記録する。</p>	<p>・「礼儀」にかかわって、児童がどんな意識をもっているかつかむ。</p>



段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	<p>1, 本時の学習に興味・関心をもつ。 礼儀正しい人について、みなさんの中から、2人の書いたものを紹介します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 君は、挨拶をきちんとするんだなあ。僕もしてるよ。 ・ さんは丁寧な言葉で話している。そのことを××さんは、見習いたいと思っているんだなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 礼儀正しい人について具体名を挙げて想起している児童の「ほっとカード」の記述を取り上げ、今日の学習内容と、自分たちの生活が結び付いていることに気付かせる。
展開前段 22分	<p>2, 資料「しつれいおばさん」を聞いて、気持ちのよい礼儀について話し合う。</p> <p>「しつれいおばさん」のお話を聞いて、どんなことを感じましたか。</p> <p>「しつれいおばさん」は、どんな気持ちで子どもたちに「失礼というものよ。」と言い続けているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口うるさいおばさんだ。 ・ 悪いことは悪いと叱る人だ。 ・ おばさんは失礼ではなく、失礼なことをした人を正す人だ。 ・ 怖いおばさんだと思っていたけれど、実は優しいおばさんだ。 ・ 子どもの方が失礼だ。 ・ マナーをちゃんと分かってほしいから。 ・ 失礼なところは直してほしいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話文では、表情豊かに印象的に読み聞かせる。同時に、挿絵の拡大コピーと状況理解を促す紙板書を黒板に貼る。
展開後段 15分	<p>3, 役割演技をし、ねらいとする道徳的価値に対する多様な価値観にふれる。 また、道徳的価値を自分との結び付きでとらえる。</p> <p>みっちゃんは、感想が言えなかったね。そのとき「しつれいおばさん」は、どんな気持ちで「失礼というものよ。」と言ったのでしょうか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【演じる時の観点】 おばさん（みっちゃん）になり切って、その時の気持ちを考えながら。</p> <p>【観る時の観点】 感じたことを後で話せるように。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割演技をする際のグループは、普段の生活班とする。 ・ 演技のウォーミングアップをさせ、抵抗感を和らげる。 ・ 役割演技に先立ち、観点を示す。せりふも短くする。

	<p>おばさんとみっちゃんに、なり切って演じてみましょう。</p> <p>【グループでの役割演技】</p> <p>お互いに演じ合ってみて様々なことを感じたと思います。</p> <p>どんなことを感じましたか。【意図的指名】 C1はどんな気持ちで表現したのですか。 C1、みんなに見せてあげて。</p> <p>【話し合いを深める際の代表の役割演技】</p> <p>どんな気持ちが伝わってきましたか。</p> <p>子どもたちが、素直に「はい。」とやり直すのはどんな気持ちからでしょうか。</p> <p>何でそんなに好きなのでしょう。</p> <p>おばさんは礼儀正しさのことを伝えたかったようですが、みっちゃんとはなんと言えよかったですでしょう。</p> <p>【体験して実感する役割演技】</p> <p>みなさん、このお話の「しつれいおばさん」と子ども達のような出来事はありませんか。 それはどうしてでしょうね。</p> <p>4、今までの体験を思い出して礼儀正しくされて気持ちよかったことを話し合う。 今までに礼儀正しくされて気持ちがよかったことはどんなことですか。</p> <p>【意図的指名】</p>	<p>おばさん「どう、面白かった。」 みっちゃん「・・・」 おばさん「相手にたいして失礼というものよ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その子が大人になって困らないようにと思って。 ・あいさつをきちんとすると気持ちいいから。 <p>・C1の「しつれいおばさん」がよかったと思う。</p> <p>・いい人になってほしい。</p> <p>おばさん「どう、面白かった。」 みっちゃん(教師)「・・・」 おばさん「相手にたいして失礼というものよ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みっちゃんに優しく教えてあげる感じ。 ・将来のことを考えて注意している感じ。 ・とても優しい声で言っていた。 <p>・やっぱり失礼だったなと思ったから。</p> <p>・大人になる前に直して、礼儀正しくなろうと思うから。</p> <p>・おばさんのことが大好きだから</p> <p>・いつも注意するけれど、本当は優しいということが伝わってくるから。</p> <p>・おばさんが優しく素直な人だということ子ども達は分かっているから。</p> <p>・楽しかったよ。</p> <p>・明日も聞きたいな。</p> <p>・ぼく面白かったよ。もう一度聞かせてよ。</p> <p>・お母さんです。ご飯を食べるときのマナーです。肘は付かないなど。ちょっとうるさいなあとと思うけれど、次は直そうと思う。</p> <p>・周りの人を嫌な気持ちにさせてしまう。そんな人になってほしくないから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物に自我関与し心の中を声に出して演技を行わせる。 ・教師は機会をとらえて横から補助的発問をしたり助言したりすることにより、より深く考えさせる。 ・代表の演技から、感じたことを発表させ、観点に沿いグループで演技したことを確認させる。ねらいとする道徳的価値に気付いていない児童にも広める。 ・お互いに相手のことを考えることが、真心のこもった礼儀正しさと気付かせるようにする。 ・礼儀正しさについて、自分との結び付きでとらえた上で、実践的におばさんに話しかける形で、望ましい受け答えをさせ、ねらいとする道徳的価値を実感させる。 ・真心がこもっていた例が出るように、意図的指名をする。出ない場合は、教師の方から体験談を示す。
<p>終末 5分</p>	<p>5、本時のまとめをさせる。 今日の学習を振り返って、感じたことを「ほっとカード」に書きましょう。</p>	<p>・これからは相手がどんな気持ちになるのだろうと考え、お互い分かり合いながら話したり、あいさつをしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値に対する自分なりの思いや考えをまとめさせ、日常に生かされていくように意識付けを図る。

2 指導展開案（指導実践2）

- (1) 主題名 家ぞくのーいんとして 「4-(3)家族愛」
- (2) 資料名 大きなテーブル（出典 みんなのどうとく3年 学研）
- (3) ねらい 家ぞくのーいんとして、明るく楽しい家庭をつくろうとする。
- (4) 展開案（手だてにかかわる部分はゴシック体で表す）

段階	活動のねらい	学習活動	指導上の留意点
指導に先立って	4人家族がパン作りをするホームビデオを見せ家族に対する各自の思いをふくらませる。 日常の体験や、そこで自分や自分以外の人を感じたことについて、目を向けさせる。	・パン作りのビデオを見る。 ・「ほっとカード」に、自分や自分以外の人を感じたことについて、記録する。	・「家族愛」にかかわって、児童がどんな意識をもっているか、つかむ。
<p>ほっとカード 設問1 家の人に、何かをして喜ばれたことがありますか。みなさんのことを、教えてください。その時、どんな気持ちになりましたか。</p> <p>設問2 おうちの人で、家族のためにがんばっている人はだれですか。どんなことをがんばっていますか。それを見て、どう感じましたか。</p>			



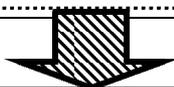
段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	1, 本時の学習に興味・関心をもつ。 家の人に、何かをして喜ばれたことがありますか。 【意図的指名】 マッサージってどうやるのですか。	・ペンキ塗りを手伝った。茶碗洗いを手伝った。 ・マッサージをして、褒められた。 ・動作化 ・私もやったことがあるよ。 ・ぼくは、こんなふうにお父さんにやってあげているよ。	・家族の中での自分の行動を想起させ、家族との関係を意識させる。 ・一人の日常をクラスに広めることで、体験の想起・共有・共感を促す。
展開前段 15分	2, 資料「大きなテーブル」を読んで、「わたし」の気持ちについて話し合う。 お父さんやお兄ちゃんから、帰宅が遅くなるとの電話があり、先に夕ご飯を食べ始めた「わたし」は、どんな気持ちだったでしょう。 どうして、食べ始めたのにおいしくないんだろう。	・ショックだ。さびしいなあ。一人で食べるの嫌だから、待たせようかな。 ・やった。自分のペースで食べられる。さびしくない。 ・わいわいしゃべって食べるのがおいしいのに、みんながいないから。	・資料は場面で切って朗読する。同時に、挿絵の拡大コピーと「わたし」の家族に対する思い・状況理解を促す紙板書を黒板に貼り、発問する。 ・「わたし」に対する児童の意識の類型化を図る。
展開後段 22分	3, 役割演技をし、ねらいとする道徳的価値に対する多様な価値観にふれる。 また道徳的価値を自分との結び付きでとらえる。 資料の本文「やっといつもの夕食が始まりました」のところから主人公の気持ちを考え、グループで話し合っ、役割演技をしてみましよう。	【吹き出しにわたしの気持ちを書く】 ・みんなそろって、うれしい。	・役割演技をする際のグループは、生活班とする。 ・一人で食べているときの表情をさせたり、吹き出しにせりふを書くことで、演技に入りやすくさせる。

<p>【グループでの役割演技】</p> <p>【演じる時の観点】 「わたし」になり切って、その時の気持ちやせりふを考えながら</p> <p>【観る時の観点】 もし自分だったら、どう演じるか考えながら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よかった。みんなそろっていつものように楽しく食べられる。 ・学校での面白かったことを話そう。 ・味が変わったぞ。うまい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技に先立ち、観点を示す。 ・登場人物に自我関与し心の中を声に出して演技を行わせる。
<p>他のみんなもそういう経験はありますか。</p> <p>お互い演じ合ってみて感じたことを、話し合みましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ある。ふうちゃんと同じようなことがあったよ。 ・一人で食べていたときは、しょんぼりした感じで、四人そろったら笑顔だ。 ・表情がぱっと変わる。 ・わたしは家族が大好きなんだなと感じていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は機会をとらえて横から補助的発問をしたり助言したりすることにより、より深く考えさせる。
<p>【話し合いを深める際の代表の役割演技】</p> <p>【意図的指名】 その時の気持ちを表して見せてください。</p> <p>お兄ちゃんのことが出てきましたね。</p> <p>みんななら、ここでどんな話がしたいですか。</p>	<p>語り手（教師）やっといつもの夕食が始まりました。</p> <p>わたし「みんなで食べるとやっぱりうまい。お兄ちゃん部活で、どんなことがあったの聞かせて。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い時間、部活をがんばってきたから気になる。いっぱい話をしたい気分。 ・お父さん、今度の休みいつ。やった。帰ってきて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族のことを想起し、今までの自分を見つめさせる。
<p>4、家族の大切さについて話し合う。</p> <p>みなさん、家族がいてよかったなあと思った経験は、ありませんか。</p> <p>同じように怪我や病気になった時、家族がいて良かったという思いをした人はいますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家に帰ったとき、「お帰り。」と迎えてくれた時。 ・発熱した時、看病してくれた。その時、家族がいて良かったし、うれしかった。 ・足を怪我した時、毎日学校に送ってくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の日常をクラスに広めることで、体験の共有・共感を促す。
<p>終末 5分</p> <p>5、本時のまとめをさせる。今日の学習を振り返って、「ほっとカード」に感想をまとめましょう。</p> <p>【意図的指名】 Aさんの、おうちの人のメッセージを紹介します。心のノートの74～76ページを開いてみましょう。みんなも、おうちの人のメッセージを振り返って読んでみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族っていいものだなあ。 ・今、思い出したけど、風邪を引いた時、すぐ病院に連れて行ってくれた。すぐ風邪が治るような気がした。 <p>～心のノートから～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お姉ちゃんだと思って父さんも母さんも厳しいことを言うけど、みんなAの事を大切に思っているんです。Aと弟が、笑っている顔を見て、「明日もがんばるぞ」って元気になれるんだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の今までの家族に対する接し方や考え方を振り返り、「家族の役に立とう」「家族を支える人になろう」という心構えがもてるようにする。

3 指導展開案（指導実践3）

- (1) 主題名 じぶんをふりかえって 「1-(2)思慮・反省」
- (2) 資料名 あらそい(出典 みんなのどうとく3年 学研)
- (3) ねらい よく考えて行動し、過ちは素直に改めようとする気持ちをもつ。
- (4) 展開案(手だてにかかわる部分はゴシック体で表す)

段階	活動のねらい	学習活動	指導上の留意点
指導に先立って	<p>日常のけんかについて、振り返る。</p> <p>日常の体験や、そこで自分や自分以外の人を感じたことについて、目を向けさせる。</p>	<p>・けんかについてのアンケートに記入する。</p> <p>・「ほっとカード」に自分や自分以外の人を感じたことについて記録する。</p>	<p>・「思慮・反省」にかかわって、児童がどんな意識をもっているかわかむ。</p>
<p>ほっとカード 設問1 「うわ、失敗してしまった。」と思う日が先生はあります。もう、こまっちゃいます。みんなの「失敗しちゃったな。」とか「やりすぎちゃったな。」という出来事と気持ちを教えてください。</p> <p>設問2 他の人の「あの一言は言いすぎだと思うよ。」とか「失敗しちゃったな。」という出来事を教えてください。それをあなたは、どう感じたか教えてください。</p>			



段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	<p>1, 本時の学習に興味・関心をもつ。</p> <p>けんかのアンケート結果について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>けんかの理由 けんかした後の気持ち</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・原因は様々であるが、最後はエスカレートしてけんかになる。僕もみんなも同じだな。 ・けんかの後の気持ちで、先生が、隠しておいた項目は何だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過ちの経験について事前アンケートをとっておき、グラフを提示し、日常と道徳の時間を結び付けながら、資料へいざなう。
展開前段 15分	<p>2, 資料「あらそい」を読み、「ぼく」とコレッティ君の気持ちについて話し合う。</p> <p>「ぼく」は仕返しをした後、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>なぜ謝らないのですか。やりすぎだと思っているくせに。</p> <p>コレッティ君は何でそんなに、怒っているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・僕は悪くない。最初にやったあいつが悪い。 ・悪いことしちゃった。やり過ぎた。謝ったら許してくれるかな。 ・笑うべきではない場面で笑った顔が許せない。コレッティ君がきちんと謝っていない。 ・でも本当は心の中では謝りたいと思っている。色々な気持ちが心の中で回っている。 ・「ぼく」がわざとやったと分かっているから謝りたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は場面で切って朗読する。同時に、挿絵の拡大コピーと登場人物の思い・状況理解を促す紙板書を黒板に貼り、発問する。 ・全面にインクの付いた紙を提示する。
展開後段 22分	<p>3, 役割演技をし、ねらいとする道徳的価値に対する多様な価値観にふれる。</p> <p>また道徳的価値を自分との結び付きでとらえる。</p> <p>「コレッティ君」はどんな気持ちで、待ってるのでしょうか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【演じる時の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の中にたくさんの思いが回っている「ぼく」 ・わざとやられた「コレッティ君」 ・役になり切って()の中に気持ちを入れて </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技をする際のグループは、生活班とする。 ・演技のウォーミングアップをさせ、抵抗感を和らげる。 ・役割演技に先立ち、観点を示す。

	<p>「ぼく」は、どんな気持ちで「待っているとも。」と言ったのでしょうか。「ぼくとコレッティ君」になり切って演じてみましょう。</p> <p>【グループでの役割演技】</p> <p>(資料の状況が急速に変わる場面を朗読した後) 「コレッティ君」はどうして「もうけんかはよそう。なかよくしよう。」と言ったのでしょうか。 「ぼく」が「うん」と言ったのはどんな気持ちからでしょうか。</p> <p>謝られた「ぼく」は、帰り道で、どんなことを考えていたでしょう。</p>	<div data-bbox="655 174 1082 353" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【観る時の観点】 相手のせりふを聞いた時、どんな印象を受けたか、後で話せるように もし自分だったら、どう演じるか考えながら</p> </div> <div data-bbox="655 398 1082 544" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>帰りに待ってるよ(どんな仕返しをしてやるう。) 待っているとも(つられて言っちゃった。どうしよう。本当は謝りたいんだけど。)</p> </div> <div data-bbox="655 555 1082 712" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>帰りに待ってるよ(許せない。でも自分も悪かった。) 待っているとも(すごく怒っているんだろうな。逃げたいよ。)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も悪かった。このままけんかしていたら、ずっと仲良くできない。 ・拍子抜けしてしまった。けんかしないで済んだ。安心した。これが本当は言いたかったんだよコレッティ君も同じ気持ちだった。 ・やっぱり、自分から謝れば良かった。ぼくはなんて格好悪いんだ。仕返しなんかするんじゃないかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抵抗感のある児童には友達の表現方法や考えを参考にしてから、自分の考えを表出できるような配慮をする。 ・カッとなる「ぼく」、帰りに待っているよと言う「コレッティ君」どちらにも共感させる。 ・教師は機会をとらえて横から補助的発問をしたり、助言したりすることにより、より深く考えさせる。 ・予想に反し、登場人物がけんかにならなかったことで、思慮・反省の大切さを実感させる。 ・心の円グラフを活用して、「ぼく」の後悔の念に共感させる。
	<p>4, 今までの体験を思い出して後悔したことについて話し合う。</p> <p>いつまでも後悔の気持ちが残ったということはありませんか。</p> <p>同じように、友達とけんかして、似たような気持ちになった人はいませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に友達とけんかして、謝ろうと思ったけど、どうしても謝れなくて、後悔した。 ・一回は一回だと言って、叩き返して、ひどい目に遭わせてしまった。「やらなければよかった。ごめん。」という気持ちでいっぱいだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強要はせず、でない場合は教師の体験を話し誰にでも弱い心があるが、素直になることは大切だと言うことを感じ取らせる。
<p>終末 5分</p>	<p>5, 本時のまとめをさせる。</p> <p>諺「過ちを改むるに、憚る事なかれ」を紹介する。</p> <p>今日の学習を振り返って、「ほっとカード」に感想をまとめましょう。</p>	<div data-bbox="655 1749 1082 1951" style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・原因が何であれ、悪いと思ったら自分の方から謝った方がいいと思いました。わけは気持ちですっきりするからです。相手も、自分もです。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の今までの友達等に対するや考え方や接し方を振り返り、ねらいとする道徳的価値に対する思いをまとめさせる。